

【報告1】

# 大崎市流地域包括ケアシステム！

認知症施策と生活支援体制整備事業等を  
**地域でつないで一体的な動きを生み出す**

～小単位地域で地域支援コーディネーターと民生委員、  
認知症地域支援推進員等が話し合い、当事者に役立つつながりを育てる～

宮城県大崎市民生部

社会福祉課地域包括ケア推進室

高齢介護課高齢福祉係

中川 由紀代

齋藤 瞳

# 本日の報告で伝えたいこと

**1** 大崎市流地域包括ケアシステム

**2** 大崎市の認知症施策

施策を展開する上で重視してきているポイント

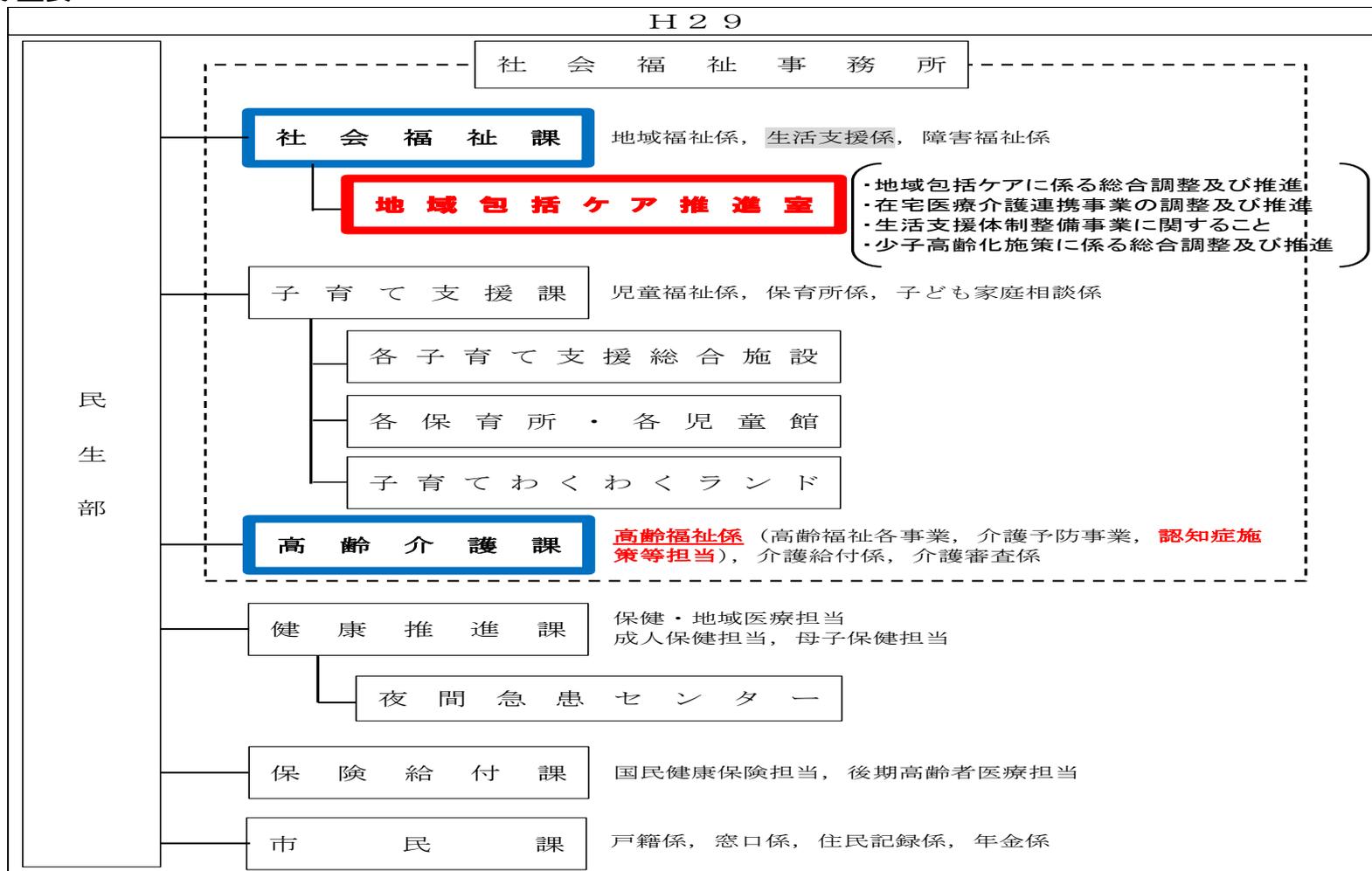
**3** 地域包括ケアシステム構築を進める中で認知症  
施策を含めた各事業の連動性



# 本題に入る前に・・・大崎市の組織体制

## 地域包括ケア推進室の設置 地域の諸課題を横断的に検討・推進する体制を構築し、事務の効率化を図る

- 地域包括ケアシステムは、単に「高齢者」部門に限定された取組みではなく、子どもや障害者、子育て世代、元気な高齢者も含めたすべての世代が対象
- 支援やサービス内容も医療や介護などの専門的なサービスをはじめ、住まいや空き家問題といった地域社会における問題とも密接に関連
- 民間サービスや地域での支え合いの取組み、町内会、自治会といったあらゆる組織、団体が関係した地域全体での取組みであることが重要



# 大崎市の紹介



- 大崎市は宮城県の北西部に位置する。
- 東西に約80km，面積は796.76km<sup>2</sup>
- 大崎市は平成18年3月31日，古川市・松山町・三本木町・鹿島台町・岩出山町・鳴子町・田尻町の1市6町が合併した市である。
- 日常生活圏域は上記の旧1市6町の区域を圏域の基礎とし，古川地域を中学校区を基本とした5つの区域にわけた，11圏域としている
- 各圏域は，それぞれ地理的条件や人口，交通事情などその他の社会的条件が異なる



<基本情報>	平成30年4月1日現在
総人口	131,692人
高齢者人口	37,774人
高齢化率	28.7%
世帯数	51,222世帯
介護認定者数	7,436人
要介護認定者率	19.7%
認知症高齢者数 <small>(介護保険主治医意見書Ⅱ以上)</small>	4,544人
第7期介護保険料(月額)	5,865円(※第6期基準月額と同額)
地域包括支援センター数	4カ所
認知症地域支援推進員数	14人(行政2人, 包括12人)
日常生活圏域数	11圏域



# 日常生活圏域(中学校単位)ごとの状況

平成30年4月1日現在

圏域名	人口 (人)	高齢者人口 (人)	高齢化率 (%)	要介護認定 者数(人)	認定率 (%)	認知症患者数 (人)	認定者割 合 (%)	
古川	22,578	4,920	21.8%	861	17.5%	483	56.1%	古川地域包括 支援センター
古川東	22,168	4,623	20.9%	825	17.8%	479	58.1%	
古川西	7,210	2,651	36.8%	523	19.7%	326	62.3%	
古川南	16,174	2,935	18.1%	481	16.4%	266	55.3%	
古川北	9,508	3,076	32.4%	649	21.1%	369	56.9%	田尻地域包括 支援センター
田尻	11,018	3,841	34.9%	847	22.1%	520	61.4%	
三本木	7,944	2,395	30.1%	417	17.4%	254	60.9%	志田地域包括 支援センター
松山	6,063	2,081	34.3%	385	18.5%	207	53.8%	
鹿島台	11,965	4,085	34.1%	828	20.3%	523	63.2%	
岩出山	10,891	4,380	40.2%	989	22.6%	698	70.6%	玉造地域包括 支援センター
鳴子	6,173	2,787	45.1%	631	22.6%	419	66.4%	
大崎市	131,692	37,774	28.7%	7,436	19.7%	4,544	61.1%	

※古川中央(古川中学校学区)、古川東部(古川東中学校学区)、古川西部(古川西中学校学区)、古川南部(古川南中学校学区)、古川北部(古川北中学校学区)

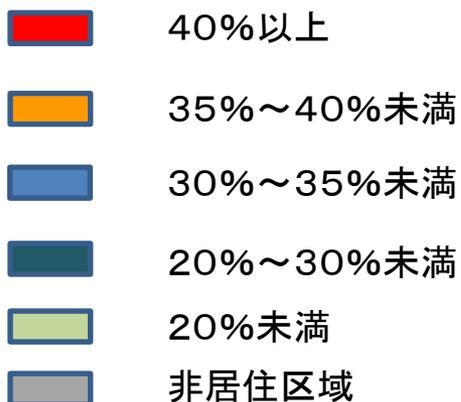
※認知症高齢者数:介護保険主治医意見書により認知症高齢者自立度がⅡa以上の人数

# 大崎市の高齢化率の分布状況

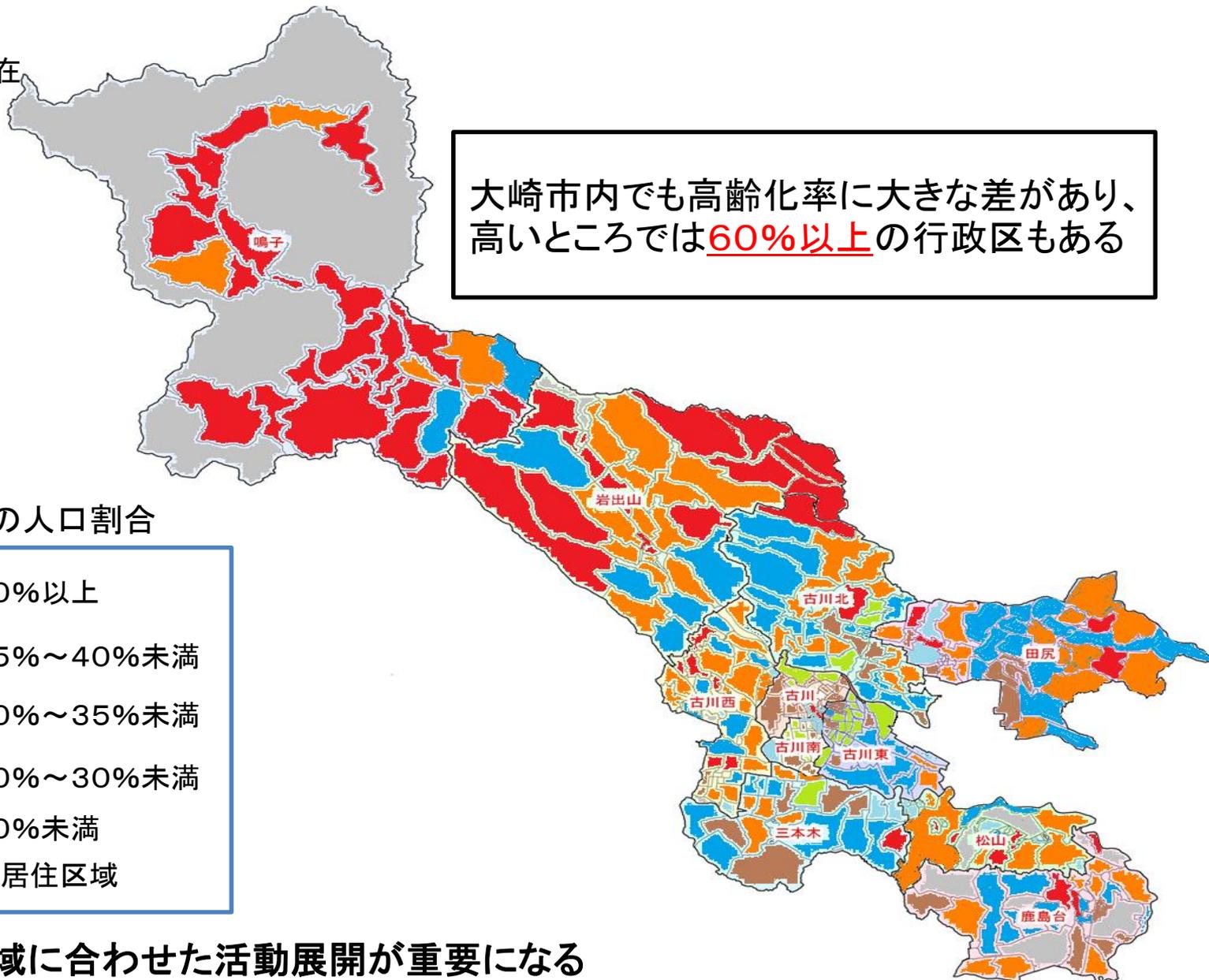
平成29年4月1日現在

大崎市内でも高齢化率に大きな差があり、高いところでは60%以上の行政区もある

65歳以上の人口割合



※地域に合わせた活動展開が重要になる



# 少子高齢化社会から考えること・・・地域包括ケアシステムの構築に向けて

- ・ 高齢者の数が多いということだけではなく

一人暮らし・二人暮らし・・・認知症高齢者・・・老老介護の増加

長寿による高齢者一人ひとりの価値観等が**多様化**  
心身の状態, 収入構造, 求める生きがい等 が多様となる

- ・ 生産年齢人口の数が減るというだけでなく

若年層・現役世代自体の支える力が弱まっていく

それでも・・・

**認知症の方の約5割の方が**

「日頃から利用するお店や場所・行きたいところ」に

「**生活のなじみのところ, なじみの人がいるところ**」を上げています。

(※注 平成29年度認知症の人と家族の実態把握調査からこころの声アンケート より)

**また, 高齢者の約6割の方が**

「**医療や介護が必要になっても自宅で暮らしたい！！**」と考えています。

(※注 第7期大崎市高齢者福祉計画・介護保険事業計画日常生活圏域ニーズ調査より)



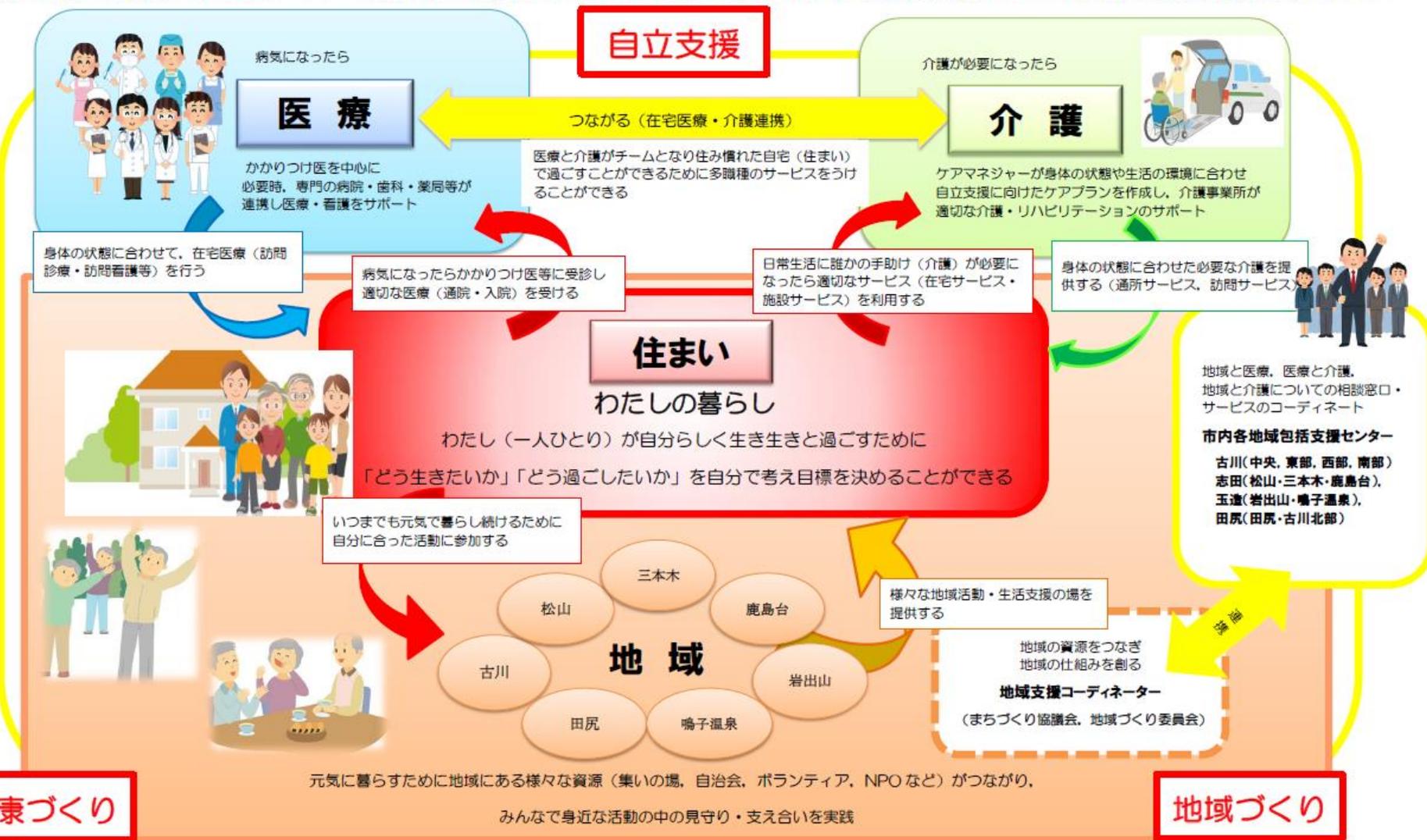
一人ひとりの住まい(**わたしの暮らし**)を中心にして,

**暮らしの基盤の地域**で既にある仕組み(つながり)を活かした

新しい包括的な支援・サービス提供体制の仕組みを作っていくことが必要

# 大崎市流地域包括ケアシステムの図…いつまでも生き生きと住み慣れた地域で暮らし続けることが出来るために…

「健康づくり」「自立支援」「地域づくり」を三本柱とし、わたし(住まい)を中心に地域と医療と介護が一体的となった大崎市流地域包括ケアシステム(みんなで支え合える仕組み)があります。

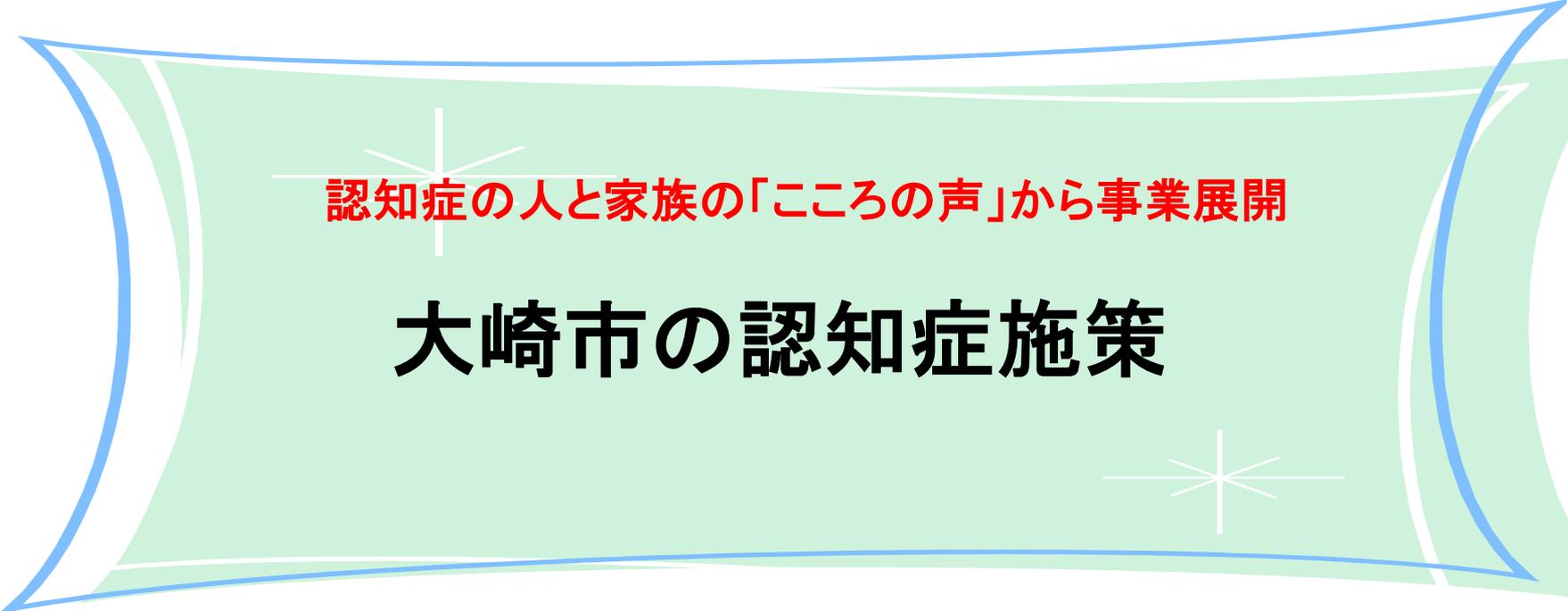


# 大崎市流地域包括ケアシステムの図・・・いつまでも生き生きと住み慣れた地域で暮らし続けることができるために・・・

「健康づくり」「自立支援」「地域づくり」を三本柱に、わたし（住まい）を中心に地域と医療と介護が一体的となった大崎市流地域包括ケアシステム（みんなで支え合える仕組み）があります。



【宝の都(くに)・大崎～ずっとおおさき・いつかはおおさき】



認知症の人と家族の「こころの声」から事業展開

# 大崎市の認知症施策

# (1) 認知症施策の経過

## ■平成18年合併当初の課題

旧市町でそれぞれ異なった保健活動の歴史。  
認知症施策の方向性や取り組む事業も異なる。(地域性の違い)

## ■平成21年度

大崎市としての方針を決定する必要性あり  
⇒大崎市認知症支援検討委員会の設置(2ヵ年)

※地域包括支援センターを直営から委託へ

<市の認知症施策の長期目標を決定>



いつまでもいきいきと、認知症になっても安心して暮らせる大崎市

## ・ 認知症実態把握調査事業の実施

目的;市内全体の認知症の傾向を調査

一部モデル地域に実施(200名希望者, CDR,MRIの実施)

## ■平成22年度～

調査報告を含め、認知症についての啓発を強化 (認知症サポーター養成講座の実施)

→認知症施策の方向性を『地域づくり』を主とする

地域の「高齢者の集い」中心に、認知症サポーター養成講座を実施

(課題)

講座を行政職員が認知症キャラバン・メイトとして実施

⇒ 初年度は事業拡大

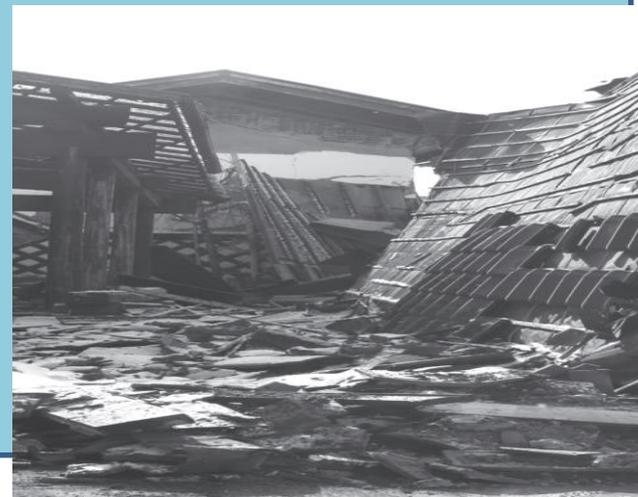
・・・しかし受講者が同じで継続, 発展が難しい

⇒ なかなか活動が活発にならない

この方法でいいのか?  
(行政のみでの活動の限界・・・?)

## 東日本大震災 (平成23年3月11日)発生

市内にも重大な被害  
⇒ライフラインの寸断, 道路, 建物の倒壊,  
⇒避難所が開設  
※要援護者の把握・支援の検討  
全てが混乱, 急務の作業が次々と  
⇒(担当者の思い) **認知症高齢者の支援が大きな課題**



- 平成23年度  
認知症施策を重点事業として取組み開始, 認知症施策を体系化  
⇒**第5期大崎市高齢者福祉計画・介護保険事業計画**に『**認知症高齢者の支援**』を明記

一次予防(発症予防・元気づくり)	1 健康教育・健康相談・出前講座
	2 高齢者の集い
二次予防(早期発見・早期対応・進行遅延)	1 認知症専門相談
	2 高齢者の生きがいと健康づくり事業
	3 認知症実態把握事後調査
三次予防(機能維持・悪化予防・家族支援)	1 認知症サポーター養成講座
	2 認知症高齢者家族交流会
	3 介護支援専門員等の認知症講演会

連携し活動推進するために, 認知症地域支援推進員を行政, 地域包括支援センターに複数配置

## (2) 認知症の人と家族の実態把握調査「こころの声アンケート」

### ① 取り組みのきっかけ

- 行政担当者と地域包括支援センターで担当者会議を開催
  - 活動の目標を決定
  - 既存の事業の見直し
  - 課題整理

認知症地域支援推進員の目指す姿(中期目標)

**認知症の人と家族が 優しい地域の輪の中で 元気に暮らせる大崎市**

- 活動を決定する中で大切にしたい考え方

事業や取組が認知症の人と家族の笑顔につながっているか確認しながら行っていきたい

認知症の人と家族に誰もが優しく温かい声かけができる地域になるといいな

認知症の人と家族が孤立しないで、地域の人達や関係機関みんなが同じ輪の中に入って、つながることができるといいな

活動を考える大前提として  
**認知症の人と家族の  
思いを聞こう！！**



**どんな方法？**



**認知症の人と家族の  
実態把握調査  
「こころの声アンケート」  
の実施**

# ②調査概要

## アンケートの目的

- いつまでもいきいきと認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを推進するために、**認知症の人と家族の声を聴き、地域で暮らしていく上での課題について明らかにする**
- 認知症の人と家族に常日頃関わっている介護支援専門員に調査を依頼し、聞き取りを通し本音を聴くことで、認知症の人と家族の気持ちを知り、アセスメントに活かすことができる

### 《4種類のアンケートを実施》

- ご本人用アンケート
- ご家族用アンケート
- 介護支援専門員アンケート(調査に取り組んでの思い等)
- 事業所用アンケート(事業所として調査を通じての意見等)

### ■調査の位置づけ

- 根拠法令  
認知症対策等総合支援事業実施要綱、  
大崎市認知症施策総合推進事業実施要綱
- 調査名称  
認知症の人と家族の実態調査～こころの声アンケート～
- アンケート実施期間

平成24年1月～平成24年3月(調査実施期間;平成24年1月24日～平成24年2月29日)

### ■調査概要

- 対象者および対象者数: 市内に在住の65歳以上の要支援・要介護認定者で概ね以下の要件に該当する方  
障害高齢者の日常生活自立度 自立～A 認知症高齢者の日常生活自立度 II 以上
- 調査場所 在宅および グループホーム
- 調査実施数 認知症高齢者 110件 その家族 91件 介護支援専門員106件
- 調査方法 **聞き取り調査**



大崎市では、一番認知症の当事者、家族の身近な存在である介護支援専門員に依頼し、聞き取り調査として実施

### ③ー I 平成24年度 調査分析結果 ご本人の声

認知症であっても、本人の感情や思いはいきている  
(これまでもこれからも・・・わたしはわたし)

- やりたいこと、得意なこと、自分の気持ちをもっている
- まわりの人に、認めてほしい、褒めてほしいと思っている
- また誰もががして欲しくないことは同じように嫌だ
- 役割や趣味があると嬉しい、楽しい
- 忘れることへの不安や体への不安、家族のことを心配している人もいる
- いろいろなことができなくなる理由は身体的な老化によるものの場合もある(認知症だけが原因ではない)

本人の気持ちをよく聞くことが何より大事(本人本位のケア)

本人の思い・アセスメントの重要性、本人を中心とする地域づくりをすすめたい

### ③ーⅡ平成24年度 調査分析結果 ご家族の声

本人のことについて、現在のこと、将来のこと悩みや不安がある

- 何度も同じことを言うなど、判断・理解力の低下で本人の認知症に気が付く場合もあるが、性格が変わったり、行動が変わって気が付く場合もある
- BPSDの対応に、困っている(※ただし本人はまだ自分で出来と思っている場合もある)
- 本人を一人にできない、本人のことが心配、自分の時間がない、などで疲労しており、将来へ不安がある
- かかりつけ医への信頼、安心があるが、認知症への対応や家族の気持ちを理解してほしいと言う声もあり
- 利用する介護サービスへの感謝の気持ちが多い

周囲への認知症への理解によって介護者の負担感が大きく違う、  
家族の気持ちを傾聴することで本人のケアにつながる

本人、家族と関わる関係者への認知症サポーター養成講座の実施  
(認知症を支える地域づくりの展開)、  
家族支援の実施(認知症高齢者の介護家族交流会、認知症講演会)

# ③一Ⅲ平成24年度 調査分析結果 介護支援専門員・居宅介護支援事業所の声

本人及び家族の気持ちを聞いて気がついた事がある

- 今回聞いてみて本人の思いや状態に気が付いた人も多かった
- 本人の気持ちを聞くのに、どのように伝えたらよいか悩んだと言う声もあった
- 家族の認知症を認めたくない気持ち、受け入れていった気持ちがあることが分かった
- 家族支援が大切だと気が付いた人もいる
- 医療と介護の連携、情報の共有の必要性がある
- 地域の理解の重要性や、社会支援の不足を感じている

アセスメントに活かしていくことが重要、本人本位のアセスメントと、  
本人に必要な地域づくりが大切と実感

研修会の実施・地域資源人材育成の実施

### ③－Ⅳ平成24年度調査分析結果まとめ（事業化へ）

○地域への思い（**地域の理解があると本人も家族も安心**）

→ **地域啓発の拡大（認知症サポーター養成講座の実施）**

認知症キャラバン・メイトと  
ともにアンケート結果を共有  
⇒活動の拡大

○介護サービスへの思い

（**役割大，介護サービスの認知症ケアへの理解で支援が広がる**）

→ **横の連携の強化（人材育成事業の取り組み開始）**

○医療への思い（**かかりつけ医の役割大，専門医との連携**）

→ **医師会と連携し，ネットワーク化（認知症対策推進協議会の設置へ）**

関係者で結果を共有分析し，認知症施策に取り入れる＜活動の根拠が明確になる＞

※取り組みの拡大に向け認知症地域支援推進員を増員し，連携して取り組める体制へ

## ④平成29年 5年後の評価として調査を再実施

5年経って、地域やニーズが変わってきている気がする。再調査をして今の現状やニーズを把握し施策に生かしていきたい！

(大変だけど...でも、やろう！)

→1年かけ、推進員みんなでじっくりまとめ、考える

戻ってきたアンケート用紙のコピーをとり、項目ごとに切り離し、項目ごとに模造紙にまとめていきました



### 調査概要

調査目的などは前回同様+5年後の評価として  
アンケート実施期間

平成29年1月～平成29年2月(調査実施期間;平成29年1月16日～平成29年2月28日)

・調査実施数 認知症高齢者 157件 その家族 165件 介護支援専門員168件

## ④- I 平成29年度分析調査結果 本人の声

### ○変化

- ・私の得意なこと→趣味や長年の仕事・役割, その他...回答できる人が増えた!
- ・やりたいこと, 夢→趣味や役割と回答した方が2倍以上に(18%→38%)
- ・全体的に「なし」という回答が圧倒的に減った



ケアマネさんの聞き取り(本人の思いをくみ取る)が丁寧になった。  
本人を取り巻く方たちが本人の意思や意向に沿ったかかわりができているのでは。

### ○前回同様

やさしくしてほしい, ほめてほしい, 言葉で傷つく, バカにしないでほしい...



感情は生きている

本人ができることを見守り, 自信をもって暮らしていける関りが大切

## ④-Ⅱ 平成29年度調査分析結果 ご家族の声

### ・物忘れがあると気づいたこと

→周辺症状で気づくご家族が多かったが中核症状の初期の段階で気づいた方が増えた！

### ・介護をしていてうれしかったこと

→「特になし」が36%→3%に減った

本人への、周囲の心地よい対応で、ご家族がうれしくなるという声も

### ・介護のどういうところを相談したか

→サービス利用についての相談が48%から39%になり、接し方についての相談が6%から22%に増えた。

+認知症の専門病院や受診先を知りたい方が9%から14%と増えており認知症の診断には医療が必要であることが周知され始めた。

### ・今後充実してほしいサービスや支援

→「地域の居場所づくりや地域との交流、地域の理解」に関する回答が10%から24%へ

### ・新規設問「地域への思い」

→地域に理解者や協力者がいる方が約50%



「認知症になっても、住み慣れた地域で暮らし続けるために」早期発見、対応の工夫、本人にとってのなじみの場所、人の大切さ等...意識の広まり→やはり地域づくりが大切

# ④-Ⅲ 平成29年度 調査分析結果 介護支援専門員・介護事業所の声

・「医療について思うこと」の回答数が増え、医療との連携への関心が高まっている

→認知症の正しい診断を受けることで適切なケアにつながる  
初期に受診することが大切/かかりつけ医の存在が大きい 等

「医療は医療、地域は地域」の考えから「医療と地域の連携」の考えへ

・医療と介護の連携について「医療との距離を感じる」が27%から17%に  
→しかしまだ医療連携にあたり、要望が多数！

・フォーマルサービスを望む声が23%から7%に  
→住み慣れた家、場所に対する思いを大切にしていける必要がある  
地域の集いの存在が本人にとって励みとなっている 等の回答が増えた。

地域とかかわりを持ちながら暮らしている元気なうちからかかりつけ医と連携して  
情報共有していくことで、重度になっても切れ目ない支援をすることができる

・聞き取り調査で聞き取りにくかったこと「特になし」が28%から63%へ！

## ④-IV 平成29年度 調査分析結果のまとめ

①認知症サポーター養成講座などを通して地道な普及啓発活動を積み重ねることで地域の理解が広まり、それによって家族の安心につながっている。

また、家族、事業所など「本人本位のケア」ができはじめている？

➡ 対応について知りたい方が多いのでサポーター養成講座の内容検討等の普及啓発が必要

②本人のなじみの環境が大事ということが理解され始めているので、引き続き地域資源を豊かにできる取り組みを住民の方と一緒にやっていく。また、センター方式研修等の事業所研修を継続してやっていく。

➡ 重度になっても無理に家族や地域だけで関わるということではない。症状の経過に伴い利用できる資源はお伝えしていく。

③医療介護連携をさらに進めていく必要性。

➡ 役割を生かして「つなぐ」ことの意識

### (3) 大崎市の認知症施策の目指す方向

長期目標：(平成21年度～)

**いつまでもいきいきと認知症になっても  
安心して暮らせる大崎市**

中期目標：(認知症地域支援推進員活動目標 平成23年度～)

**認知症の人と家族が優しい地域の輪の中  
で元気に暮らせる大崎市**



平成28年度～

**【認知症みんなで見見みんなをサポート方式】**

認知症の啓発と地域づくり, ネットワークづくりを主に実施

# 大切にしている考え方

あくまでも本人本位  
(一人一人の支援を大切に)

認知症ケア基礎研修  
(センター方式研修)  
認知症初期集中チーム  
認知症サポーター養成講座  
認知症専門相談, 家族交流会など各種事業

個別の相談から**地域資源(宝)**の  
活用につなげていけるように

認知症ケアパスの啓発  
【つながることで支援の  
流れができる】

個々の支援から  
地域の課題を検討

地域包括ケアシステムの  
構築  
(大崎市に合わせた仕  
組みづくり)

地域の課題から  
行政の施策化へ

# < 認知症施策の全体 >

新オレンジプラン七つの柱	取り組み内容
1 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進	<p>① <b>認知症サポーターキャラバンの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーター養成講座を基礎とフォローアップの二種に分けて実施</li> <li>・活動できる認知症サポーターの育成に向けた取り組みの実施</li> <li>・学校教育等における認知症の人を含む高齢者への理解の推進</li> </ul> <p>② 大崎市キャラバン・メイト連絡会の実施</p> <p>③ 市民向け啓発の実施</p>
2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供	<p>① 認知症ケアパスの啓発, 活用(認知症対策推進協議会関連) 認知症ケアパス(相談窓口版)のPR</p> <p>② 認知症地域支援推進員の配置, 活動の実施</p> <p>③ <b>認知症地域支援推進チーム育成研修</b></p> <p>④ 地域ケア会議の実施(地域資源活用)</p> <p>⑤ <b>認知症初期集中支援事業及び認知症専門相談の実施</b></p> <p>⑥ 介護サービス事業所対象認知症ケアセンター方式基礎研修の開催</p>
3 若年性認知症施策の強化	<p>① 若年性認知症の人と家族の交流会の実施(栗原市, 県と共催)</p>
4 認知症の人の介護者への支援	<p>① 認知症高齢者の家族介護交流会, 認知症カフェの開催</p> <p>② 家族向けの認知症介護教室等の普及啓発</p>
5 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進	<p>① 認知症カフェの開催</p> <p>② 成年後見制度の活用促進</p> <p>③ 高齢者虐待防止に向けた取り組み</p> <p>※その他「生活支援」「環境整備」「就労・社会参加支援」「安全確保」については課題に応じ必要時検討していく</p>
6 認知症の予防法, 診断法, 治療法, リハビリテーションモデル, 介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進	<p>※情報収集</p>
7 認知症の人やその家族の視点の重視	<p>① <b>認知症の人と家族の実態把握調査「こころの声アンケート」の実施(5年間の事業評価)</b></p>

認知症施策を各事業と連動させ一体的な動きをつくる

**地域を基盤とした認知症施策の展開  
(地域支援推進員活動を中心に・・・)**

## ■ 地域とともにつくる・・・生活支援体制整備事業

- 市では**地域住民が主体**となった生活支援・介護予防サービスの充実を目指し、「**生活支援体制整備事業**」を実施している。

### 【大崎市の特徴】

- 行政主導ではなく、地域の実情に合わせて「地域の支え合いの仕組み」を創るために、地域自治組織(まちづくり協議会等)の希望(手上げ方式)により、地域支援コーディネーター(以下コーディネーター)を配置。(現在6団体実施)
- そのコーディネーターが既にある地域の資源を活かし、住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができるように地域のコミュニティーを活性化して、地域全体で支えあえる体制を創っていくものです。(1団体への交付額120万円)

### ■ 地域支援コーディネーターって何をする人？ ■

関係者のネットワークや既存の取組・組織等を活用しながら、(A)資源開発、(B)関係者のネットワーク化、(C)ニーズとサービス提供主体のマッチング等の調整業務を実施し、地域の支え合いの仕組みを構築する役割があります。

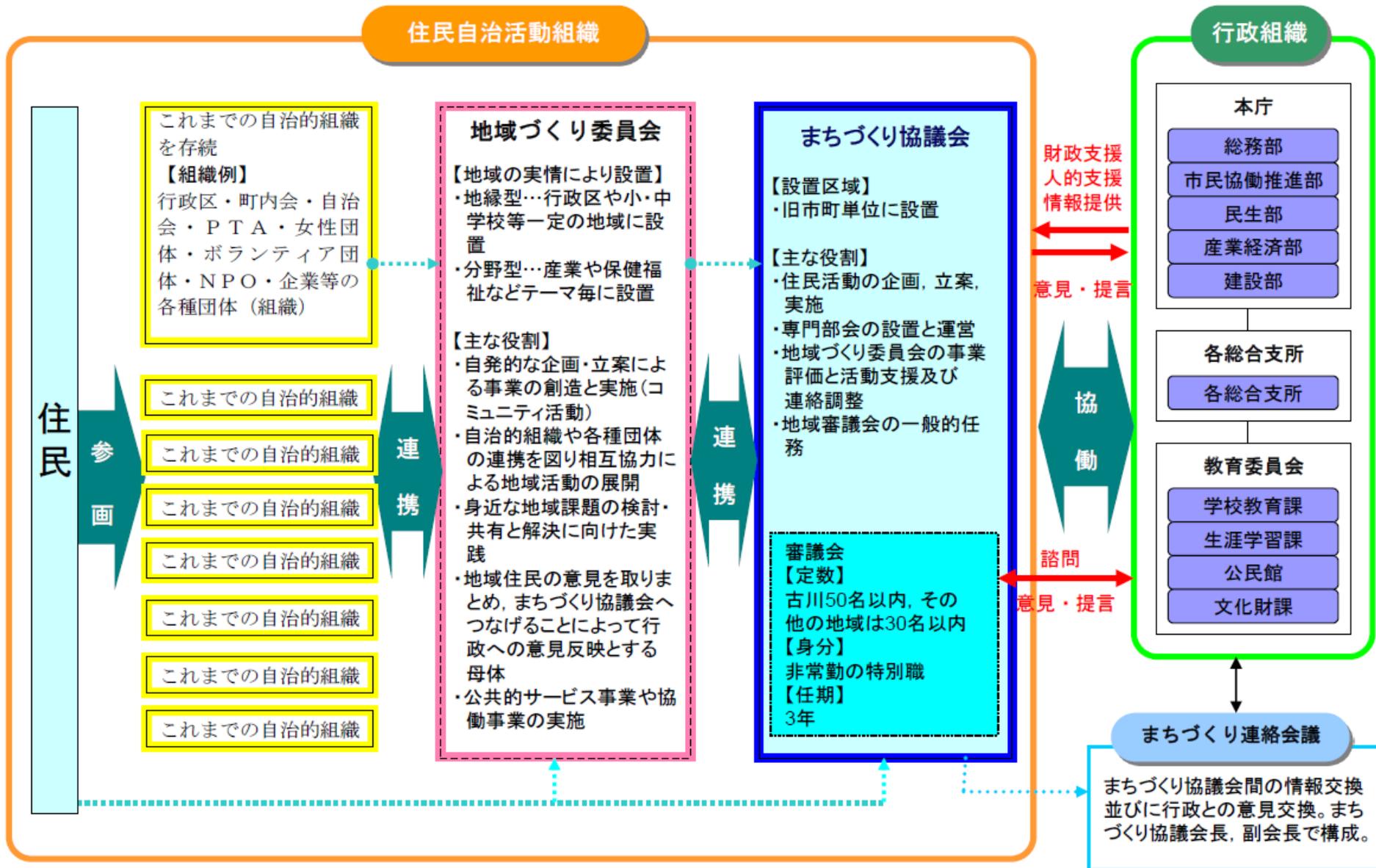
本事業は、市民協働推進部まちづくり推進課【大崎市地方創生に伴う地域自治組織戦略体制整備モデル事業】と連動し、概ね小中学校区などの基礎的な生活圏の中で、小さな拠点づくりとネットワークづくりの構築を推進している。(持続可能な地域づくり)

もともと大崎市では「大崎市話し合う協働のまちづくり条例」を定め、市民と行政が協働のまちづくりを進めている。(例；地域自治組織が指定管理を受け地区公民館を運営するなど、地域づくりの核となっている。)

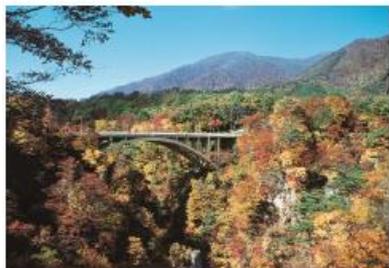


地域と話し合いながらじっくり進めている

# 大崎市流地域自治組織のイメージ図



# 大崎市の地域自治組織



## 鳴子地域

鳴子まちづくり協議会  
鬼首地域づくり委員会  
中山地域コミュニティ連絡協議会  
鳴子地域づくり委員会  
東鳴子地域づくり委員会  
川渡地域づくり委員会  
鳴子山地域づくりネットワーク



## 岩出山地域

岩出山まちづくり協議会  
まやま自治会  
池月地域づくり委員会  
上野目自治協議会  
岩出山地域づくり委員会  
西大崎地域自治協議会



## 田尻地域

田尻まちづくり協議会  
田尻ほなみ委員会  
沼部ふるさと委員会  
大貫かんぼやま委員会



## 三本木地域

三本木まちづくり協議会  
行政部会、産業部会、  
文化部会、教育部会、  
体育健康部会、福祉部  
会、安全部会、地域部  
会、環境生活部会



## 松山地域

松山まちづくり協議会  
健康福祉部会、産業交  
流部会、生活環境部会、  
安心安全部会、教育文  
化部会

## 古川地域

古川まちづくり協議会  
志田中部地区振興協議会、志田東部地区振興協  
議会、西古川地区振興協議会、東大崎地区振興  
協議会、宮沢地域振興協議会、長岡地区地域づく  
り協議会、富永地区振興協議会、敦玉地区振興協  
議会、高倉地区振興協議会、清滝地区振興協  
議会、東部コミュニティ推進委員会、西部コミュニ  
ティ推進協議会、南部コミュニティ推進委員会、中央コ  
ミュニティ運営協議会、江合親睦会、福浦親和会、  
古川中心地域自治協議会、中里駅南地域協議会、  
緒絶地区協議会、親栄自治協議会、古城コミュニ  
ティ協議会



## 鹿島台地域

鹿島台まちづくり協議会  
コミュニティ活動委員会  
のびのび生涯学習委員会  
健やか安心委員会  
活力ある産業委員会  
安全で快適委員会

# ■地域の医療・介護の専門職とともにつくる・・・ 在宅医療・介護連携推進事業

・医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関が連携して包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を目指す。関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築するため、市と医師会が中心になって各職能団体および医療介護関係機関の多職種と連携し実施。

■地域の医療・介護の資源の把握 市のHP上に「大崎市医療・介護マップ」情報提供

■在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

大崎市地域包括ケア推進懇談会(在宅医療・介護連携を考える会)の開催

■切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

大崎市医師会内で主治医・協力医制の導入

■医療・介護関係者の情報共有の支援

大崎市医師会が主体となり「おおさき地区医介連ネットワーク」(ICT活用等によるネットワークシステム)開始

■在宅医療・介護連携に関する相談支援

大崎市在宅医療・介護連携支援センターの設置(医師会に委託)

■医療・介護関係者の研修 市, 医師会, 市民病院等関係者で連携し, 研修会の開催

■地区住民への普及啓発

住民の集いの場で講演会, 勉強会の開催等, 市民対象のイベントでの啓発,  
「フラッと いしかいサロン」開設

■在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携

## 活動報告例

# 認知症施策と生活支援体制整備事業の連動

～民生委員児童委員活動から見えた「困りごと」をつないで勉強会を開催～

- 池月地域づくり委員会では、地域でワークショップを重ねたのち、「池月サポートセンター（いけさぼ）」を運営
- 地域支援コーディネーターを2名配置し、有償ボランティア「池月を助け隊」を結成し、地域の困りごと（草むしり、雪かき、家具の移動等）に対応している。

- 地区の民生委員・児童委員と勉強会を実施している。（2か月に1回）
- 6月の勉強会において「**ニーズと地域の担い手掘り起し**」のワークショップを実施。
- 民生委員児童委員活動を通じて、「相談される困りごと」を出し合い、整理した。  
（共有化）
- 地域支援コーディネーターが、上記の内容を地域のボランティアで解決できるもの、専門職と話し合いたいものにグループ分けを実施。  
➡7月の勉強会において  
【**困りごと解決のための勉強会**】を企画し開催。



- 大崎市医師会 在宅医療・介護連携支援センター，大崎薬剤師会，市内訪問看護ステーション管理者懇談会と連携し，講師を派遣してもらい，総合支所保健師，地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員）を交えて，意見交換を行った。

→一人暮らし，二人暮らしの医療継続のためのサポートについて  
（薬局の活用，訪問看護ステーションの活用）

→認知症かな？とかかわって気になった場合の，相談先と，そのあとの地域での見守りについて

- 参加した民生委員から，  
「認知症であってもどのように見守っていけばよいかかわかると地域で今まで通りの見守りができる」  
「ただ勉強をするより 地域で困っていると意識してから聞くとわかりやすい」  
「今回学んだことを自分の地域のお茶っこ会で伝えたい。」  
などの感想が出た。

- 地域のボランティアで解決できるものは，池月を助け隊のメニュー拡大などを検討していく予定。



この取り組みを，他の生活支援体制整備事業実施地域へ報告  
また医療介護の専門職の役割を考えるために医療・介護連携事業の会議で報告  
→一つの取組みから得られた成果を連動してさらに関係者を広げていく

## 活動報告例

# 認知症施策と介護予防事業と

## 在宅医療介護連携推進事業の連動

～地域の身近な居場所で必要なことをつないで見守り合いの継続～

■大崎市では認知症サポーター養成講座の中で見守り合いのひとつとして、地域の居場所づくりと介護予防事業が連動できる「いきいき百歳体操推進事業」を紹介しており、広く展開している。（平成28年度8月から事業開始。現在102団体、高齢者のうち1,700人以上参加。）

- 地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員）が要介護認定を受けている認知症の方ご本人の住まいを活用し、地域の人を集め、「いきいき百才体操」のグループ形成を支援。（もともとお世話好きの方。会場の準備など、ご本人にできる役割がたくさんある！）
- もともとのつながりを活かし、参加者が毎週集い、体操を継続しながら、自然な見守り合いを行っている。
  - ・・・認知症地域支援推進員等が必要時関わりを持っている。

- 関わっている中で、ご本人が様々な薬を飲み忘れてたり、ほかの参加者に自分の薬を勧める等気になることが出てきた。（周囲もどう対応したらいいかわからない。）
- 認知症地域支援推進員が、在宅医療介護連携推進事業の地域啓発（大崎薬剤師会の出前講座）を依頼し、体操の終了後、みんなで薬の飲み方の勉強会を開催。
- 地域の薬剤師が直接薬の効果や飲み方の講座を行い、またお薬手帳を見ながら個別相談を実施。
- 「薬は治療だからきちんと飲もう」、  
「何かあったら医師や薬剤師へ相談を」、  
「自分の薬は他の人と交換しない」などみんなで確認できた。



薬剤師の講座の様子

## ➡個別支援を地域の支援へ

身近な集いで、必要な時に医療介護の専門職につながり、安心した居場所の継続につながる。

# 例えば...居場所づくり

## 認知症カフェとは...

「認知症当事者の方とその家族が気軽に立ち寄ることができ、ホッと一息情報交換や相談ができる場所」

## 大崎市の認知症カフェは...

地域住民の傾向をとらえた結果、ニーズのあるところで開催する！



大崎市の認知症地域支援推進員活動は...  
各包括の推進員が、常にアンテナを高く張り、  
地域を知り、ニーズを把握し、人をはじめとする  
地域資源を「つなぐ」ことを丁寧に行っています。

# ～参加者の方の活躍の場をつくりたい～

事業所のカフェスペースを利用して  
ケアマネさんが主体で開催

～特色～  
新興住宅地で子供を頼って越してきた  
高齢者が多い。集会所がなく地域の集い  
がほとんどない為孤立しがち。事業所の  
カフェ営業が終了したあと、14時から開催。



ご家族の声  
お世話型のサービスありきではなく、  
カフェのような場所があると本人の  
活躍の場にもなる。  
家族としてはそれがとてもうれしい。

カフェでの活動  
のみならず、  
市内事業所の  
慰問にもお声を  
頂いて、活動  
されています

## 図書館で定期開催

認知症の本  
コーナーを設  
置してもらい  
ました

～特色～  
大きな駅が近く町中に図書館  
がある。昨年リニューアルし、  
子供から大人まで多くの方が  
利用。日中は気になる高齢者  
の方も多く来館されると司書さ  
んからお話があり、一緒に居場  
所づくりと、様々な年代への普  
及啓発を試みようということに。



# ～地域のお医者さんも参加～

ある日、地域の開業医の先生より...



「ねえ、ポスターみたけど  
認知症カエって何？  
どういことしてるの？」

「先生、ひとまず遊びに  
来て下さい！」



昼休みを利用してお話しをしに  
来てくれました!!

(事前に先生へカフェの説明に推進員と  
ケアマネさん、市職員で伺いました)



「とてもいい取り組みだね！」とのお声を頂き...

地域の先生たちでも「フラッといしかいサロン」はじめました  
(地域包括ケア推進室と連動)



# ～様々な機会を活用し、カフェと一緒に普及啓発活動～



様々な事業をキャラバンメイトさんも一緒に

地域の大きな文化祭で毎年ブースを設けています。大人から子供まで幅広い年代の方が参加。

足を運んでくれた方から...「うちのスペースをなにかに使ってもいいよ!」との声を頂き、地域でカフェを開催。また、小さなお子様を持つお母さんが活動に興味を持って下さることもありました。

活動を知ってもらうことで、また新たなつながりや活動が広がっています



道の駅で開催地域のボランティアさんと



ケアパス、事業のチラシ等活動のお知らせもぬかりなく...!



# ～地域にあった内容で～



マルシェの  
機会に♪

推進チーム員はじめ、  
地域の皆さんに  
ご協力を頂きます



空き店舗を  
利用



週に1回駅で地域のお母さん達が野菜や総菜を販売していた。その隣には公民館...  
同じ時間帯で公民館を借りてカフェを開催したい！  
担当は地域の事業所さんたちがお互いに連絡を取り合い、順番で。

推進員が機会や場所、人を丁寧につなぎます

# ～地域に集まりはあるが、まずはやってみよう～



移動図書の利用を利用して開催



地域のボランティアさんと、  
近くのグループホームの方  
も参加

カフェがなくても居場所がたくさんある地域...  
「あえてカフェをしなくても」という葛藤も...でも、  
せっかくの機会、「うちの地域には合うかな？」  
まずは一回、推進員でやってみよう！



大人から子供まで認知症について考える機会に  
(普及啓発の場として)

## ここにはいきいき百歳体操のグループ 等々...がある！



チーム員さんとの情報交換、地域の  
ケア会議などを定期的に行う等、  
推進員を中心に長年地域のつながり  
や居場所づくりが自然にできている。  
→今までの居場所づくりを継続する！

今ある資源を再確認



# 居場所づくりを通して気づいたこと

・まだ当事者の方が参加されるカフェは少ないけれど、「1人の人に丁寧に関わる」ことの積み重ねが大切。

・カフェが必要か、悩むこともある。でも、他のところで認知症の方が地域の方と一緒にいられる場所があるのでカフェはなくても良い、もあり！

・地域の居場所づくりをしている活動の普及啓発活動も大切。様々な機会を逃さず普及啓発カフェも必要。一緒にこころの声アンケートを張り出す等、活動の紹介をすることも重要。

**やっぱり...カフェは目的ではなく手段**

～推進員の声～

症状と共に歩いていくご本人に沿った関りができるようにしている。時間が年単位でかかることもある！本人が必ずしも認知症を受容できなくてもいい。とにかく一緒に悩む！

# 最後に…

どんなに地域で暮らしていきたいたくても

少子高齢化 人口減少 長寿化 が付きまとう…

だからこそ、それぞれが望む選択肢を叶えるために地域・医療・介護・行政が一緒に考えて取り組んでいく必要がある。

**「協働」**

「精一杯でこれ以上はできない」という地域であっても、さげない見守り活動や支え合いが行われているはず…

例えば、犬の散歩中の見守り、隣近所へのおすそ分け、郵便ポストの確認、部屋の明かりを確認 など



**発想を柔軟に、人・資源を活かしあう**

生活目線で、自然とさげなく行われている地域の見守りや支え合いをつなぎ、そこに専門職の視点を加え、必要な医療や介護につなぐことで「大崎市流地域包括ケアシステム」をみんなで築いていく

# 大崎市話し合う協働のまちづくり条例

## 前 文

まちはみんなで作るもの。

私たちは、より住みよい暮らしを実現するため、話し合いを大切にした協働のまちづくりを進めます。

暮らしの中にある悩みや不安、喜びや楽しみを分かち合い、互いを尊重し、助け合いながら、地域の抱える課題を解決していきます。

そのために、市民も行政も、みんなが主体となって、対等な関係で話し合いを行います。

話し合うことによって、想いや考えが伝わり、人と人とのつながりが生まれます。

そして、一人では思いつかなかった新しい気づきや発想が生まれます。

そう、話し合いの過程が人をはぐくみ、まちをつくるのです。

話し合いの文化を根づかせていくことが、私たちの目指す協働のまちづくりの姿です。

そんなみんなの声を活かせるまちをつくるため、この条例を制定します。

(平成26年4月施行)



ずっとおおさき 宝の都大崎で  
ご清聴ありがとうございました



# 参考資料

## 平成29年度認知症の人と家族の実態把握調査 調査票

(ご本人用, ご家族用, 介護支援専門員用, 居宅介護支援事業所用)

### こころの声アンケート

～ずっとおおさき・宝の都おおさきで～

大崎市では誰しもが「**楽しい地域の輪の中で元気に笑顔で暮らせる大崎市**」をめざし、今回介護に関してみなさん自身の

『大切にしていること』

『人にわかってもらいたいこと』などの

『声（気持ち）』を伺いたいと思います。

ご協力よろしくお願いたします。

今のおからの調子はいかがですか？

**足ケガしてホントでない、からだは大丈夫。**

日ごろから楽しんでいる趣味や活動は？

**白内障手術してから目が悪くなったけど、音から強、つくるの好きなの、いっぱい買って友達に上げたりしたんだよ。**

日ごろから頼りにしている、  
家族や親せきは？

**おらの息子だねえ。あとは病院とか家のことはお母さんしてくれっから。**

日ごろから利用するお店や行く場所は？  
行きたいところは？

**となりの〇〇さん（友達）ちとか近所でおしゃぶこ飲みするよ。買い物はリマートと食糧に行くね。あとはジャスコの2階とか、〇〇病院、△△療養院、デパートは楽しみだね。**

日ごろからかわりのある友達や知人は？

**となりの〇〇さん（友達）、毎日来てくれるヤクルト屋さん、あとは〇〇さん。（民政委員）**

わたしの得意なことは？

**ものつくりだね。**

わたしの苦手なものは？

**人まえて話とかやだねえ。**

最近、うれしいこと、楽しいことは？

**おらの孫、成人式で、振り袖着て見せてうれしかったよ。**

私の不安や心配なことは？

**不安だよ、病気のこと、いっぱいある。先々のことを考えると不安になる。夜になるとさみしい。**

周りの人にしてほしいことは？  
言ってほしい言葉は？

**「行く時一緒に行こう。」  
「遊びに来るからね。」  
「遊びに来てね。」**

周りの人にして欲しくないことは？

**バカにされたくない。**



わたしがやりたいことや夢は？

**旅行に行きたい。**

## ご家族様用アンケート

### ご家族の方ご自身のことについてお答えください。

1. ご本人様との関係（ ） 例・夫を介護している→妻

※それぞれの項目で該当するところを○で囲んでください。

2. 同居について 有 ・ 無

3. 仕事について 有 ・ 無

### 現在の介護の利用状況についてお答えください。

※それぞれの項目で該当するところを○で囲んでください。

4. 現在利用している介護保険サービス

① 利用している      ② 利用していない。

⇒ ①の場合、具体的なサービス名（それぞれ介護予防サービスも含む）。

- |                      |                          |
|----------------------|--------------------------|
| ア. 訪問介護（ホームヘルパー）     | ク. 短期入所生活介護（ショートステイ）     |
| イ. 訪問入浴介護            | ケ. 短期入所療養介護（医療型ショートステイ）  |
| ウ. 訪問リハビリテーション       | コ. 認知症対応型通所介護            |
| エ. 居宅療養管理指導          | サ. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） |
| オ. 訪問看護              | シ. 福祉用具貸与・購入、住宅改修        |
| カ. 通所介護（デイサービス）      | セ. その他（ ）                |
| キ. 通所リハビリテーション（デイケア） |                          |

### ご本人様の様子についてお聞かせください。

5. 物忘れがあると気づいたのは、どんなことで気づきましたか。その事に気づいたのは、いつ頃ですか。また、そのことについて、家族など誰かに相談をしましたか。

・気づいたこと

・気づいた時期（例；〇年前）

・このことについて相談した方（例；息子、娘、嫁、子、その他、相談しなかった等）

### 医療や介護、相談窓口についてお聞かせください。

※それぞれの項目で該当するところを○で囲んでください。

6. 物忘れについて、医療機関に相談しましたか。

- ① かかりつけ医    ② 認知症専門医    ③ 相談していない  
④ その他（ ）

7. 介護について、**最初にどこに相談**しましたか。

- ① 市役所  
② 地域包括支援センター  
③ 県の保健所  
④ 社会福祉協議会  
⑤ ケアマネジャー事業所・ヘルパー・デイサービスセンター  
⑥ グループホーム  
⑦ その他（ ）

8. 介護の**相談場所をどこで知り**ましたか？

9. 介護のどういうことを相談しましたか。 ..

(例：どう接したらいいのか、介護の仕方、どこの病院に行ったらいいか、病院に連れて行けない、介護サービス利用のこと等) ..

10. 以下の市等で行っている事業(特に認知症に関して)を知っていますか？  
また、利用(参加)したことはありますか？ ..

※それぞれの項目で該当するところを○で囲んでください。 ..

項 目 ..	知っている ..	利用(参加) .. したことがある ..
認知症専門相談 ..	..	..
認知症高齢者の介護家族交流会 ..	..	..
家族介護教室・家族介護者交流会 (社協開催) ..	..	..
認知症サポーター養成講座 ..	..	..
認知症講演会 ..	..	市内・市外 ..
相談窓口(市役所) ..	..	..
相談窓口(地域包括支援センター) ..	..	..
ケアバス ..	..	..
認知症カフェ(オレンジカフェ) ..	..	..

今の思いについてお聞かせください。

11. 介護していて、困ったり、悩んでいることなど、誰かに話しかかった事はありますか。また、介護していて嬉しかったことはありますか。 ..

① 介護について ..

○ 困ったり、悩んでいること ..

(例：汚れた紙オムツを取りかえてくれない。汚れ物を押し入れに入れて大変だった。 ..  
なくしものを盗ったと言われた。) ..

○ 嬉しかったこと ..

(例：昔は嫁姑で仲が悪かった。今は、穏やかになんでも感謝してくれる) ..

○ その他、介護について思うこと ..

(例：趣味や楽しみなど自分の時間が取れない、本人を一人置いて家を空けられない ..  
体調が悪く、今後介護が続けられるか心配、本人の今後の状況に不安がある) ..

② 介護サービスについて ..

○ 困ったり、悩んでいること ..

(例：夜はしっかり寝てほしいので、デイサービスでは運動などに参加させてほしい) ..

○ 嬉しかったこと ..

(例：作品を見せながら、楽しそうにデイサービスでの様子を話してくれる事。介護の対応に困っている時、ヘルパーさんが良いアドバイスをしてくれた。) ..

1 2. 医療関係などについての思いについて..

(例; 病院が嫌いだったので、理由をつけて病院まで連れて行くことが大変だった。「物忘れも、年のせいだから」と、親身に対応してもらえなかった。病気について詳しく説明してもらえた。)..

1 3. 地域の方(親戚・知人・近所)への思いについて..

(例; 母の認知症を離れて暮らす兄弟が認めず、私の話を本気にしてくれなかった。悪口を言われた。近所の方が認知症を理解し、お茶のみに来てくれたり自宅に誘ってくれる。)..

1 4. 介護をしていて、**あなたの支え**になっていることはどんなことですか?..

(例; 家族と一緒に介護を分担してくれた。近所との同じ介護者で話しが出来たとき。ケアマネジャーや介護サービスのスタッフの、声かけや介護のアドバイス)..

1 5. 『認知症の人と家族が優しい地域の輪の中で元気に笑顔で暮らせる大崎市』をすすめていくために、**今後充実させてほしいサービスや支援**を教えてください。..

※介護・医療・地域で・・・(何でも自由に思いをお聞かせください。)..

ご協力ありがとうございました..

## 認知症の人と家族の実態調査～こころのアンケート～..

## 介護支援専門員の皆様へのアンケート(調査後)..

この度は、アンケートにご協力いただきありがとうございました。..  
 今後の地域づくりや、介護支援専門員の皆様を支援する事業の検討をすすめるために、このアンケートを終えての気持ちをお聞かせください。..

アンケート記入日 平成 年 月 日..

**ご本人について**..

※それぞれの項目で該当するところを○で囲んでください。..

1. 性別 男性 ・ 女性 ..
2. 年齢 歳 ..
3. 介護度 要支援( ) 要介護( )..
4. 認知症高齢者日常生活自立度 IIa・IIb・IIIa・IIIb・IVa・IVb・V・M..
5. 障害高齢者日常生活自立度(寝たきり度) 自立・J1・J2・A1・A2 ..
6. 居住地 古川・三本木・鹿島台・松山・岩出山・鳴子・田尻..
7. 認知症について、専門医による診断や治療のための通院、訪問による診療を受けていますか。  
 ア 受けている(専門医による診断、治療) ..  
 イ 受けている(専門医以外の医師による診断、治療)..  
 ウ 受けていない..

**家族について**..

※それぞれの項目で該当するところを○で囲んでください。..

1. 同居家族 配偶者・子ども・養理の子ども・兄弟・姉妹・親・姪・甥・孫..  
 一緒に住んでいる家族はいない・その他( ) ..
2. 主な介護家族 配偶者・子ども・養理の子ども・兄弟・姉妹・親・姪・甥・孫..  
 一緒に住んでいる家族はいない・その他( ) ..
3. 主な介護家族の性別 男性 ・ 女性..

**担当の介護支援専門員様**..

※それぞれの項目で該当するところを○で囲んでください。..

1. 居宅介護支援業務の経験年数 ..  
 1年未満 ・ 1年以上3年未満 ・ 3年以上5年未満 ・ 5年以上..
2. あなたが、ご本人とご家族を調査対象者として選択した理由をお聞かせ下さい。..

3. あなたが認知症の人とご家族のアンケートをおこなってみて、気づいたこと等どうぞお聞かせ下さい。..

ご家族様の声を聞いて・・・..

介護サービスについて・・・..

医療について・・・..

地域について・・・..

4. 最後にこれからも市が介護支援専門員の支援を進めるうえでの要望や思いをお聞かせください。..  
 (認知症に限らず、日ごろ悩んでいることや、もっと研修したい内容などご自由に記載ください) ..



認知症の人と家族が、  
 優しい地域の輪の中で元気に暮らせる大崎市..

～ご協力ありがとうございました～..

## 事業所へのアンケート(調査後)

この度はご協力ありがとうございました。

事業所へのこのアンケートは、調査回が併せて、地域包括支援センター職員が直接聞き取りさせていただきますが、事業所の皆様のご意見をいただきたいので、お手紙をおかけしますが、事業所内でご意見をまとめて記入していただくと幸いです。

今回の調査結果を、「認知症の人と家族が暮らしやすい地域の輪の中で元気に笑顔で暮らせる大崎市」をめざし、いつまでもいきいきと認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの推進に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞご協力をお願いいたします。

アンケート記入日 平成 年 月 日

1. 事業所名 ( )
2. 所属する介護支援専門員の人数 ( ) 人
3. 調査実施数 ご本人様用 ( ) 件、ご家族様用 ( ) 件

4. この度、認知症の人とご家族のアンケートをおこなってみて、事業所としていかがでしたか? ざっくりと、ご感想、ご意見をどうぞお聞かせ下さい。

① ご本人とご家族(アンケート対象者)の選択はどのようにしましたか?

② 聞き取り調査を行ってみて、聞きにくいこと等はありましたか?

③ その他調査全体を通じてご意見・ご感想をお聞かせください。

5. この度の調査や、日ごろの居宅介護支援を通して、認知症の人とご家族を支えていくために「こんな大崎市になったらいいな」という希望や思い、ご意見を聞かせてください。

① サービス(訪問介護、通所介護、短期入所、訪問看護等)提供事業者に介護支援専門員として期待することは・・・

② 医療と介護の連携はどのようなものであったら・・・

③ 認知症の人とご家族を支える地域づくりを進めていくために・・・



～ご協力ありがとうございました～